

第61回 金婚夫婦祝福式典

今年も高知新聞企業の主催により、9月1日に金婚夫婦祝福式典が県下5会場で開催されました。四万十町からは金婚を迎えられた7組（出席は6組）のご夫婦が、土佐グランディールで多くの方から祝福を受けられました。

氏名(年齢)	お住まい
土居 明 (74) 享子 (70)	希ノ川
吉村 武峯 (83) 喜美 (82)	小 向
山脇日出勇 (75) 国子 (75)	大 正
生田 操 (78) 民江 (73)	七 里
坂本 功 (78) 京子 (77)	〃
吉岡 敏彦 (76) 裕子 (70)	峰ノ上
中越 利幸 (79) 裕子 (71)	向 川



四万夢多が県内外で四万十町をPR

チーム結成6年目となる今年は8月10日、11日の2日間、高知市で開催された「第65回よさこい祭り」に参加したほか、8月26日に愛知県名古屋市で開催された「第20回につぼんど真ん中祭り」に高知県代表として参加し、約200万人の来場者の前で踊りを披露し、四万十町をPRしてきました。

今年度も県内外で開催される約30のイベントで演舞する予定となっていますので、今後とも温かいご声援をよろしくお願いします。

故 井原 利男さんに叙位 従五位授与

元大正町教育委員長で今年6月に逝去された故井原利男さんの叙位伝達式が8月27日に四万十町役場で行われました。

このたび従五位に叙された井原さんは、昭和20年に教職に就かれ、以来40年7か月の長きにわたり教育振興に貢献をされるとともに、退職後は大正町教育委員長などの重職を歴任されました。

こうした多年にわたる功績が認められ平成16年11月3日瑞宝双光章を受賞、さらに今回の叙位の授与となりました。

伝達式には、遺族の立野淳さんが出席し、中尾町長から位記が手渡されました。



敬老の日 ご長寿訪問

9月17日の敬老の日、中尾町長、森副町長、健康福祉課長がご長寿の方々を訪問しました。この訪問は毎年行っているもので、今年は34人の方を対象に訪問し、長寿のお祝いをしました。なお、本町の最高齢は仁井田にお住まいの109歳の吉本常與さんです。

季節の風景 10月

明治維新から一五〇年

明治時代には、廃藩置県や欧米を手本にした徴兵制度や教育制度・税制も基本的に変え、近代的な国家づくりが進みました。



開始時期については諸説ありますが、狭義では明治改元にあたる明治元年旧九月八日（一八六八年十月二十三日）となります。しかし、一般的にはその前年の大政奉還、王政復古以降の改革を指すことが多く、終了時期についても、廃藩置県の断行、西南戦争の終結、内閣制度の発足、立憲体制の確立までとするなどの諸説があります。当時の人々からは、主に大政奉還と廃藩置県を指して「御一新」と呼ばれていました。

明治という表現は、『易経』の「聖人南面して天下を聴き、明に嚮いて治む」から引用されています。この元号は一八六八年旧九月七日の夜、天皇睦仁が宮中で、儒者の選定したいくつかの元号候補からくじで「明治」を選び、翌八日に睦仁治世の元号と決定しました。

新しい時代を目にすることがなかった、坂本龍馬・中岡慎太郎・武市瑞山などは、一五〇年後の現在をどんな風に思うのでしょうか。

十月と思ひこみゐて不義理せし 星野立子

今月の

人々のLIFEをワクワクさせたい



▲今ではこんなに賑やかな手仕事市

井上さんは、今年3月に四万十町役場を退職され、NPO法人「LIFE」を立ち上げられました。「LIFE」は、いわば「生き方・暮らし方よろず相談所」で、名刺の裏に記してある「自然に做う人に寄り添う暮らしを提案する」という考え方のもと、移住・定住支援、人材育成、観光、イベント運営、農業者支援、子ども・育児支援、起業支援などを行っていくというNPOです。

井上さんは、今年3月に四万十町役場を退職され、NPO法人「LIFE」を立ち上げられました。「LIFE」は、いわば「生き方・暮らし方よろず相談所」で、名刺の裏に記してある「自然に做う人に寄り添う暮らしを提案する」という考え方のもと、移住・定住支援、人材育成、観光、イベント運営、農業者支援、子ども・育児支援、起業支援などを行っていくというNPOです。

井上さんは、今年3月に四万十町役場を退職され、NPO法人「LIFE」を立ち上げられました。「LIFE」は、いわば「生き方・暮らし方よろず相談所」で、名刺の裏に記してある「自然に做う人に寄り添う暮らしを提案する」という考え方のもと、移住・定住支援、人材育成、観光、イベント運営、農業者支援、子ども・育児支援、起業支援などを行っていくというNPOです。



井上 義之さん (宮内)